

佐々木寛教授（退職教員）主要業績一覧

① 教歴・研究職歴

- 1982年4月 早稲田大学第一文学部ロシア文学科助手（1984年3月まで）
 1982年4月 国学院大学文学部非常勤講師（ロシア語）（1991年8月まで）
 1984年4月 法政大学第一教養部非常勤講師（ロシア語）（1991年9月まで）
 1987年4月 早稲田大学文学部非常勤講師（ロシア語）（1990年3月まで）
 1989年4月 千葉大学教養部非常勤講師（ロシア語）（1991年9月まで）
 1989年4月 千葉大学文学部非常勤講師（文学理論）（1992年3月まで）
 1989年4月 同大学院文学研究科非常勤講師（文学理論）（1994年3月まで）
 1989年4月 芝浦工業大学非常勤講師（ロシア語）（1991年8月まで）
 1989年4月 東京都立商科短期大学非常勤講師（文学）（1991年9月まで）
 1991年10月 信州大学教養部助教授（ロシア語）（1995年3月まで）
 1995年4月 信州大学人文学部助教授（比較言語文化学）（1999年6月まで）
 1996年4月 信州大学大学院人文科学研究科授業担当（比較文学論）（現在に至る）
 1999年6月 信州大学人文学部教授（同）（2006年3月まで）
 1999年9月 静岡大学人文学部非常勤講師（文学理論）（集中講義）
 2006年4月 信州大学全学教育機構教授（ロシア語）（現在に至る）
 2006年9月 静岡大学人文学部非常勤講師（文学理論）（集中講義）
 2009年4月 清泉女子大学大学院文学研究科非常勤講師（文学理論）（現在に至る）

② 研究業績

論文

- 1 ゴーゴリ『死せる魂』——第一部テキストの叙述の構造 // 早稲田大学文学部『ヨーロッパ文学研究』第26号, 1978年12月, pp.1-21
- 2 ブルガーリンの小説『イワン・ヴィジギン』(1829) について——風刺-教訓ジャンルの問題 // 早稲田大学大学院『文学研究科紀要』別冊9集, 1983年3月, pp.211-219
- 3 ナレージヌイの小説『ロシアのジル・ブラス』(1814) について // 早稲田大学文学部『ヨーロッパ文学研究』第31号, 1984年3月, pp.99-111
- 4 日本におけるバフチンの移入について // 日本比較文学会『比較文学』第31号, 1989年3月, pp.99-114
- 4' Труды М.М. Бахтина в Японии (1963-1994) [日本におけるバフチン 1963-1994年] // Бахтинские чтения I, Витебск, издатель Н.А. Паньков, 1996, сс.105-115
- 5 ロシアにおけるダンテ概観—『神曲』を中心に // 國學院大學『國學院雑誌』第90巻第11号(ダンテ特集号), 1989年11月, pp.226-240
- 6 バフチンにおける「声」の問題 // 新谷敬三郎教授古希記念論文集『交錯する言語』, 名著普及会, 1992年3月, pp.367-387

- 7 バフチンと一九二〇年代前半のロシア // ミハイル・バフチン全著作 第1巻, 伊東一郎・佐々木寛共訳, 水声社, 1999年2月, pp.501-527
- 8 バフチンのテキスト理論の根底にあるもの // 信州大学人文学部論集 (文化コミュニケーション学科編) 第33号, 1999年3月, pp.169-189
- 8' Основы понятия текста у М.М. Бахтина [バフチンのテキスト理論の根底にあるもの] // Диалог, Карнавал, Хронотоп. 2001 No.3, Москва, 2001, сс.99-115
- 9 Бахтинистика в Японии за последние 15 лет [最近15年間の日本におけるバフチン研究] // Proceedings of the XII International Bakhtin Conference (Juväskylä, Finland, 18-22 July, 2005), Mika Lähteenmäki, Hannele Dufva, Sirpa Leppänen & Piia Varis (eds.), University of Juväskylä, 2006, pp.126-135【CD-ROM】
- 10 『禽獣』はいかにつくられているか // 川端文学研究会編『川端文学への視界』No.23, 2008年6月, pp.86-97
- 11 「金糸雀」はいかにつくられているか // 川端康成学会編『川端文学への視界』No.27, 2012年6月, pp.39-49
- 12 桑野隆『バフチン』(平凡社新書, 2011年)を批判的に読む—バフチン研究の死点克服のために // 信州大学人文学部論集 第49号, 2015年3月, pp.273-286

翻訳 (書籍)

- 1 ミハイル・バフチン著作集 第7巻『叙事詩と小説』, 川端香男里・伊東一郎・佐々木寛共訳, 新時代社, 1982年2月 [バフチン「ゲーテと教養小説」 pp.5-101, 同「ラブレーとゴーゴリ」 pp.103-133を翻訳担当, 解説の pp.275-277を担当]
- 2 ミハイル・バフチン著作集 第2巻『作者と主人公』, 斎藤俊雄・佐々木寛 共訳, 新時代社, 1984年12月 [バフチン「美的活動における作者と主人公」の pp.149-315を翻訳担当, 解説を担当 pp.316-322]
- 3 ミハイル・バフチン著作集 第3巻『文芸学の形式的方法』, 桑野隆・佐々木寛 共訳, 新時代社, 1986年11月 [メドヴェージェフ『文芸学の形式的方法』の pp.163-384を翻訳担当, 解説を共同執筆 pp.385-391]
- 4 ミハイル・バフチン著作集 第8巻『ことば 対話 テキスト』, 新谷敬三郎・伊東一郎・佐々木寛 共訳, 新時代社, 1988年3月 [バフチン「ことばのジャンル」 pp.113-189, 同「テキストの問題」 pp.191-239を翻訳担当, 解説の pp.349-351を担当]
- 5 ミハイル・バフチン全著作 第1巻 (一九二〇年代前半の哲学・美学関係の著作), 伊東一郎・佐々木寛 共訳, 水声社, 1999年2月 [バフチン「芸術と責任」 pp.11-15 (訳注 p.462), 同「行為の哲学によせて」 pp.17-86 (訳注 pp.462-471), 同「美的活動における作者と主人公」 pp.87-368 (原注 p.459, 訳注 pp.472-489) を翻訳担当, 解題 pp.493-498および解説「バフチンと一九二〇年代前半のロシア」 pp.501-527を担当]
- 6 ミハイル・バフチン全著作 第5巻 (一九三〇年代以降の小説ジャンル論), 伊東一郎・北岡誠司・佐々木寛・杉里直人・塚本善也 共訳, 水声社, 2001年4月 [バフチン「教養小説とそのリアリズム史上の意義」 pp.61-140 (原注 p.526, 訳注 p.534-542) を翻訳担当, 解題 pp.573-575を担当]

- 7 ミハイル・バフチン全著作 第2巻（一九二〇年代後半のバフチン・サークルの著作Ⅰ）、磯谷孝・佐々木寛 共訳、水声社、2005年1月〔メドヴェージェフ「学問のサリエーリ主義」 pp.21-45（原注 pp.519-520, 訳注 pp.539-544）、同『文芸学の形式的方法』 pp.217-516（原注 pp.529-538, 訳注 pp.554-557）を翻訳担当、解題 pp.561-562, 567-570を担当〕

翻訳（論文）

- 1 ユーリー・ロトマン「ルソーと十八世紀ロシア文化」//『思想』1982年1月号、岩波書店、pp.88-110
- 2 ユーリー・ロトマン「モンタージュ論」//『映画理論集成』、フィルムアート社、1982年5月、pp.324-341
- 3 ヴァレンチン・ヴォロシノフ「発話の構造」//露文研究同人誌『あず』創刊号、1988年7月、pp.3-15；2号、1988年12月、pp.71-83
- 4 ユーリー・ロトマン「文化間の〈対話〉とテキストの逆流の問題」//『あず』5号、1993年2月、pp.47-62

書誌

- 1 日本におけるドストエフスキイ翻訳・紹介文献 明治・大正期、雑誌篇//早稲田大学比較文学研究室『比較文学年誌』第17号、1981年3月、pp.112-157（共同作業）
- 2 B.T. ナレーズイ研究資料解説//日本ロシア文学会『ロシア語ロシア文学』第13号、1981年10月、pp.98-106
- 3 新谷敬三郎先生著作目録の追加と訂正//早稲田大学ロシア文学会『ロシア文化研究』第4号、1997年3月、pp.159-161

書評、学会評ほか

- 1 十八世紀ロシア啓蒙主義に関するユーリー・ロトマンの二つの論文//早稲田大学比較文学研究室『比較文学年誌』第17号、1981年3月、pp.80-87
- 2 バフチンの出発点—草稿「行為の哲学」について//『現代思想』1990年2月号、青土社、pp.70-75
- 3 F・シュタンツェル著『物語の構造』（前田彰一訳、岩波書店）//日本比較文学会『比較文学』第32号、1990年3月、pp.176-179
- 4 『ペテルブルグの生理学』を読む//ナウカ株式会社『窓』第86号、1993年9月、pp.36-39
- 5 ロシアでのバフチン研究の新しい動向—生誕100年をむかえて//「週刊読書人」、1995年5月19日号（2084号）〔400字10枚〕
- 6 M.M. Бахтин и Мики Киёси. Путь от философской антропологии к философии языка. [バフチンと三木清—哲学的人間学から言語哲学への歩み] // The Seventh International Bakhtin Conference, June 26-30, 1995, Book II, Moscow, Moscow State Pedagogical University, 1995, pp.431-435
- 7 二つのバフチン・コンフェレンスとバフチン研究をめぐって//ナウカ株式会社『窓』

第94号, 1995年9月, pp.26-31

- 8 ヴィテプスクでの第1回バフチン・コンフェレンスに参加して—“友人名義の著作”について明らかになったこと // 早稲田大学ロシア文学会『ロシア文化研究』第3号, 1996年3月, pp.123-129
- 9 学部、大学院と雑誌『はいまあと』の頃 // 早稲田大学文学部ロシア文学専修『ロシア研究の伝統と最前線 早稲田大学露文科復活五十年の歩み』, 1997年3月, pp.208-214
- 10 ヴィテプスクの第三回バフチン・コンフェレンスに参加して // ナウカ株式会社『窓』第107号, 1998年12月, pp.8-11
- 11 マルクスの具体的普遍ではなくて行為の哲学の具体性を // 日本児童研究所編『児童心理学の進歩』VOL.40, 金子書房, 2001年7月, pp.302-306 [茂呂雄二著『具体性のヴィゴツキー』, 金子書房, 1999年の書評]
- 12 Заметки о гданьской конференции [グダンスクの学会について] // Диалог, Карнавал, Хронотоп. 2001 No.3, Москва, 2001, сс.74-75
- 13 グダンスクの第10回国際バフチン・コンフェレンスに参加して // ナウカ株式会社『窓』第119号, 2001年12月, pp.22-25
- 14 ツヴェタン・トドロフ『ミハイル・バフチン—対話の原理』(大谷尚文訳, 法政大学出版局) // 「週刊読書人」, 2002年1月の号 [400字3.5枚]
- 15 水野知昭さんとの比較文学分野での十年 // 篠田知和基編『神話・象徴・文化II』, 楽浪書院, 2006年5月, pp.601-606
- 16 『鼠小僧次郎吉』を読む // 芥川龍之介全集 [第2次] 月報11, 岩波書店, 2007年11月, pp.1-4
- 17 О профессоре Арая Кэйдзабуро [新谷敬三郎先生のこと] // Хронотоп и окрестности. Юбилейный сборник в честь Николая Панькова. Уфа, Вагант, 2011, сс.286-292
- 18 見附陽介論文「M.M. バフチンと S. キルケゴール—対話と実存について」『ロシア語ロシア文学研究』第42号, 2010年 // 日本ロシア文学会『ロシア語ロシア文学研究』第43号, 2011年9月, pp.73-75

③ 学会活動

- 1975年4月 日本ロシア文学会会員 (現在に至る)
 1979年4月 日本比較文学会会員 (現在に至る)
 2003年9月 日本18世紀ロシア研究会会員 (現在に至る)
 2007年4月 川端文学研究会 (2010年, 川端康成学会と改称) 会員 (現在に至る)

④ 学会発表

- 1 『死せる魂』のジャンル意識をめぐって // 日本ロシア文学会1979年度総会, 1979年10月, 名古屋大学
- 2 ル・サーージュとナレージヌイ—ロシア散文小説の興隆とピカレスク・ロマン // 早稲田大学比較文学研究室月例研究発表会, 1980年1月
- 3 V.T. ナレージヌイの小説と啓蒙主義の文学 // 日本ロシア文学会1980年度総会, 1980年10

- 月，早稲田大学
- 4 ゴーゴリとルソーイズム—『死せる魂』の問題 // 日本ロシア文学会1982年度総会，1982年9月，札幌大学
 - 5 ロシアのピカレスク小説—チュルコフ『可愛い料理女』について // 日本比較文学会全国大会，1984年6月，札幌学院大学
 - 6 バフチンのテキスト理論 // 日本比較文学会全国大会，1988年6月，立教大学
 - 7 バフチンのテキスト理論の根底にあるもの // 日本比較文学会東京支部大会，1993年10月，日本大学国際関係学部（三島）
 - 8 М.М. Бахтин и Мики Киёси. Путь от философской антропологии к философии языка. [バフチンと三木清—哲学の人間学から言語哲学への歩み] // The Seventh International Bakhtin Conference, June 26-30, 1995, Moscow, Moscow State Pedagogical University.
 - 9 Труды М.М. Бахтина в Японии (1963-1994) [日本におけるバフチン. 1963-1994年] // 第1回バフチン学会，1995年7月3-5日，ヴィテプスク，ヴィテプスク教育大学
 - 10 М.М. Бахтин и Тэцуро Вацудзи: вопросы этики и философии языка [バフチンと和辻哲郎—倫理学と言語哲学の諸問題] // 第3回バフチン学会，1998年6月23-25日，ヴィテプスク，ヴィテプスク教育大学
 - 11 Симпозиум:「バフチン研究の現在」// 第63回日本比較文学会全国大会，2001年6月16日，早稲田大学〔司会 川端香男里（川村学園女子大学），パネリスト 佐々木寛（信州大学），荻野アンナ（慶応大学），高山宏（東京都立大学），貝澤哉（早稲田大学）〕
 - 12 Основы понятия текста у М.М. Бахтина [バフチンのテキスト概念の根底にあるもの] // 第10回国際バフチン学会，2001年7月23-27日，ポーランド，グダンスク大学，7月26日報告
 - 13 バフチンと和辻哲郎 // 日本比較文学会東京支部例会，2004年3月27日，早稲田大学文学部
 - 14 Бахтинистика в Японии за последние 15 лет [最近15年間の日本におけるバフチン研究] // 第12回国際バフチン学会，2005年7月18-22日，フィンランド，ユヴァスキュラ大学，7月18日報告
 - 15 太宰治『駆込み訴へ』を読む // 日本比較文学会東京支部例会，2006年1月14日，青山学院大学
 - 16 『禽獣』はいかにつくられているか // 川端文学研究会第144回例会，2007年12月15日，専修大学
 - 17 「金糸雀」はいかにつくられているか // 川端康成学会第38回大会，2011年6月25日，二松学舎大学

⑤ 学内業績

- | | |
|-----------|-----------------------------------|
| 2002年4月1日 | 信州大学人文科学研究科委員長（2003年3月まで） |
| 2006年4月1日 | 信州大学全学教育機構副機構長（修学支援担当，2009年9月まで） |
| 2006年4月1日 | 信州大学全学教育機構言語教育センター長（2010年3月まで） |
| 2014年2月1日 | 信州大学附属図書館松本合同図書館副館長に兼務（2015年3月まで） |

